

焼跡から生まれた雑誌 —昭和20～24年にかけて創刊・ 復刊された雑誌—

終戦をきっかけとして、日本の出版界は騒然とした活気を呈するようになりました。窮乏にあえいでいた人々は出版物を求めて書店に殺到し、以後数年にわたって、「活字が刷ってあれば、なんでも売れる時代」とさえ呼ばれる、空前の出版ブームが招来されたのです。昭和20年に1,800点であった雑誌発行点数は、翌21年には2,900点におよび、21年1月に創刊された雑誌だけで80点を越えるとも言われています。今回の常設展示では、昭和20年代前半に創刊・復刊されたさまざまな雑誌をご紹介します。

 展示資料一覧 

<>内は当館請求記号

○総合誌・文芸誌

1. 新生 第1巻第1号

昭和20年11月 新生社

<Z051.3-Si16>

出版には素人であった青山虎之助が戦後間もなく発刊し、創刊号は発行部数17万部(一説には36万部)を売り切った。谷崎潤一郎、永井荷風、正宗白鳥らの大家が執筆者として名を連ねた。第一次『新生』は昭和22年3月まで続いた

2. 展望 第1号

昭和21年1月 筑摩書房

<Z23-15>

編集者が自分の読みたい雑誌をつくる、という信条のもとに、臼井吉見らが創刊した総合誌。思想と文学に力点を置き、執筆者には中野重治、三木清、中村光夫らの名が見える。第一次『展望』は昭和26年9月休刊

3. 思潮 第1巻第1号

昭和21年3月 昭森社

<Z051.3-Si12>

「一切の人間的思想・感情を、歪曲、抑圧によって蔽ひつくした国家的神秘の迷妄を分け出でて、潑刺たる自由の思想を呼吸する人間性の真の尊さを学ばねばなりません」（『「思潮」発刊の言葉』より）昭和24年5月終刊

4. 世界 創刊号

昭和21年1月 岩波書店

<Z23-12>

吉野源三郎が編集長となって創刊された。戦後創刊された総合誌の中でも、現在まで続いている数少ない雑誌のひとつ

5. 人間 第1巻第1号

昭和21年1月 鎌倉文庫

<Z905-N6>

鎌倉在住の文士が戦後おこした出版社「鎌倉文庫」（設立当時の社長は久米正雄、専務川端康成）から出された文芸誌。昭和26年8月休刊

○女性誌

6. 美しい暮らしの手帖 第1巻第1号

昭和23年9月 暮らしの手帖社

<Z6-352>

広告を掲載せず、日用品のテスト報告を発表し、レイアウトや執筆者選びに完全を期すなど、独自の編集方針で知られる女性誌。現在の誌名は『暮らしの手帖』

7. 婦人文庫 第1巻第6号

昭和21年10月 鎌倉文庫

<Z051.7-H11>

鎌倉文庫が吉屋信子、真杉静枝、中里恒子ら女流文学会の賛助のもとに発刊した婦人雑誌。吉屋信子を初代編集長とし、6号以降は川端康成が編集長をつとめた。昭和21年5月創刊、昭和24年10月廃刊

8. 主婦と生活 第3巻第8号

昭和23年8月 主婦と生活社

<Z6-32>

実用的婦人誌として昭和21年4月に創刊された雑誌。『婦人生活』や『主婦の友』『婦人倶楽部』とともに4大婦人誌時代を築く。平成5年4月終刊

○児童誌

9. 少年 第1巻第2号

昭和21年12月 光文社

<Z32-375>

「少年諸君の生活に明るい希望と喜びを贈る」をキャッチフレーズに、昭和21年11月、戦後最も早く刊行された少年雑誌。「鉄腕アトム」や「鉄人28号」の連載で知られる。昭和43年3月終刊

10. ひまわり 第2巻第6号

昭和23年6月 ヒマワリ社

<Z32-150>

昭和22年1月創刊。ヒマワリ社を主宰した中原淳一による表紙絵や挿画が雑誌を飾った。初期『ひまわり』は文芸色が濃く、連載小説の執筆者として最も多く登場したのは川端康成であった

11. 冒険活劇文庫 第1巻第2号

昭和23年10月 明々社

<Z32-82>

永松建夫の『黄金バット』の単行本を成功させた明々社が、この「黄金バット」や小松崎茂の「地球SOS」などの絵物語を主体として発刊した少年雑誌。昭和23年8月創刊、廃刊は昭和25年4月

12. おもしろブック 第1巻第1号

昭和24年9月 集英社

<Z32-284>

昭和24年に正式発足した集英社が創刊した雑誌。すでに単行本がベストセラーとなっていた山川惣治の絵物語「少年王者」などを柱に据えて人気を博した。昭和35年から『少年ブック』と改題、昭和44年4月廃刊

13. 野球少年 第3巻第1号

昭和24年1月 尚文館

<Z32-490>

昭和22年4月創刊。戦後創刊された少年雑誌としては『少年』に次いで2番目であった。NHKアナウンサー志村正順による「誌上放送」がヒット企画となった。昭和35年11月廃刊

○スポーツ誌

14. ベースボール・マガジン 第1巻第1号

昭和21年5月 恒文社

<Z11-24>

「…新しい日本の建設に、われわれが最も熱望するものは、美しい心の球である」(「創刊のことば」より)昭和20年代初頭の野球雑誌乱立期に発刊されたもののうち、現在も続いている唯一の雑誌(現在の誌名は『週刊ベースボール』)

15. ホームラン 第4巻第6号

昭和24年6月 蒼穹社

<Z783.7-H1>

「…誰か胸のすく、文句なしの、ホームランをカツ飛ばす奴はゐないか。再建日本に颯爽の気を吐く大ホームランを」(「創刊のことば」より)戦後発刊された野球誌を代表する雑誌。昭和25年12月廃刊

○映画誌

16. スタア 第3巻第4号

昭和23年6月 スタア社

<Z31-304>

昭和8年5月に創刊され、昭和21年3月に復刊された、映画界の最新情報を伝える高級志向のグラビア誌。この号の巻頭記事は「バアグマンの「ジョアン」撮影現場を見る」

17. アメリカ映画 第11号

昭和23年2月 アメリカ映画研究所

<Z778.05-A1>

昭和21年11月創刊。キネマ旬報同人編集。「1947年アメリカ映画総決算」と題する記事では、「断崖」「荒野の決闘」がベストテン映画の1位・2位として選ばれている

○大衆小説誌・漫画誌、その他

18. ロマンズ 第3巻第7号

昭和23年7月 ロマンズ社

<Z31-260>

昭和21年6月に創刊され、小島政二郎の連載小説『三百六十五夜』などが話題を呼んだ。昭和20年代前半の大衆娯楽誌を代表し、幾多の垂流を生んだ雑誌。昭和31年6月廃刊

19. ホープ 第1巻第1号

昭和21年1月 実業之日本社

<Z051.6-H5>

「…今日の日本を興すには闇中に求むる光の如く希望——『ホープ』を把握して、将来立派に生くる可く汗みどろになつて前進する以外に路はない」(創刊号巻末「編集者のメモ」から)漫画と小説に特色を持つ娯楽誌。昭和26年5月廃刊

20. 黒猫 第1巻第1号

昭和22年4月 イヴニング・スター社

<Z24-262>

「ポーが黒猫を書いた時と同じ情熱をもって海外作品の紹介と日本の探偵小説の向上を」(上村甚四郎「黒猫」発刊に添へて)目指し、江戸川乱歩らのバックアップを受けた探偵小説誌

21. ロック 第3巻第7号

昭和23年11月 筑波書林

<Z31-259>

「百万人の探偵雑誌」を目指した探偵小説誌

22. リーダース・ダイジェスト 第1巻第1号

昭和21年6月 リーダース・ダイジェスト日本支社

<Z23-78>

日本で最初の、日本語版外国雑誌。創刊以降爆発的な売行きを示し、昭和24年には150万部に達したと言われる。昭和61年2月終刊

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■